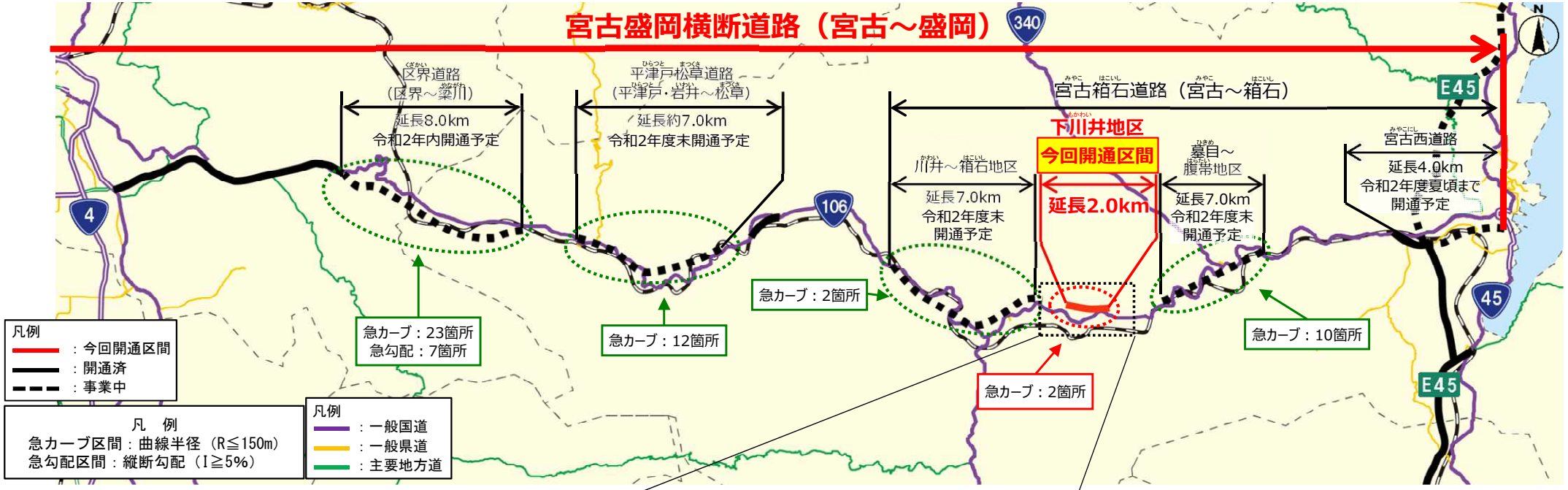
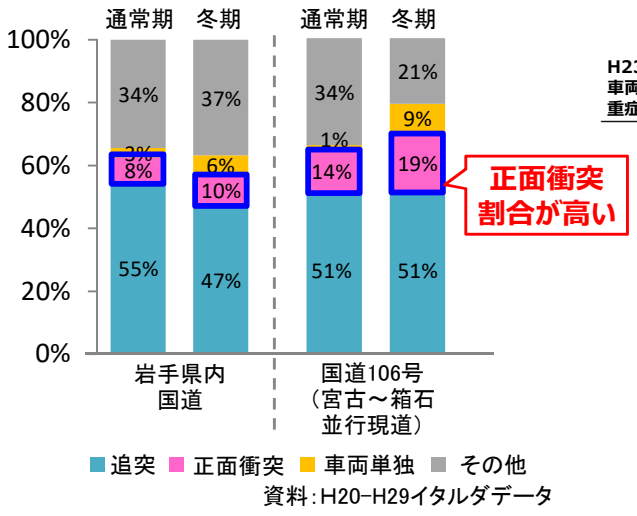
# 安全な道路ネットワークの実現

◆国道106号には多数の線形不良箇所が存在しているほか、正面衝突の割合が岩手県内の国道を上回る
◆今回開通する下川井地区では急カーブ箇所において正面衝突事故による死傷者が出ており、安全な走行に支障
◆宮古盛岡横断道路全線の整備により、道路ネットワークの信頼性向上および通行の安全性向上に期待

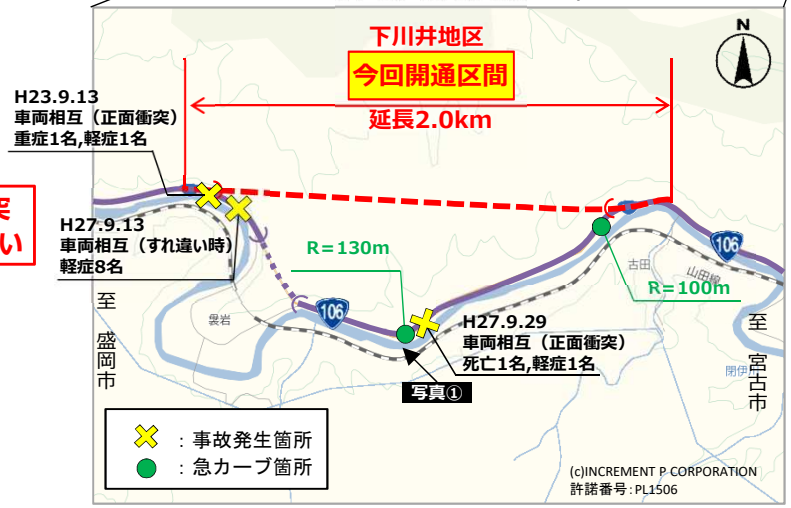



▼国道106号の事故類型




資料：H20-H29イタルダデータ

▼下川井地区並行現道の様子



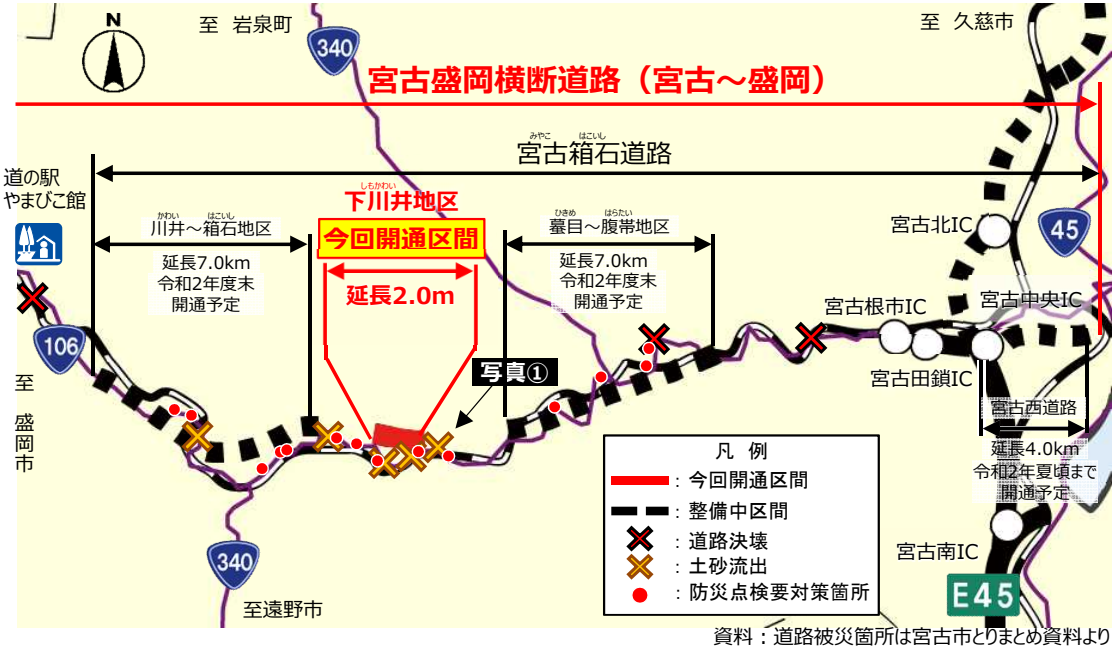

▼下川井地区並行現道の急カーブ（写真①）



# 道路ネットワークの多重性確保

◆国道106号は平成28年8月の台風10号の影響により大規模な被害を受け、下川井地区でも土砂流出が発生
◆国道106号の道路被災による通行止めによって内陸と沿岸の移動は大規模な迂回を強いられ地域生活に影響
◆宮古盛岡横断道路全線の整備により、道路ネットワークの多重性が確保され、地域住民が安全・安心できる生活の実現に寄与

▼平成28年台風10号における道路被災箇所




資料：道路被災箇所は宮古市とりまとめ資料より

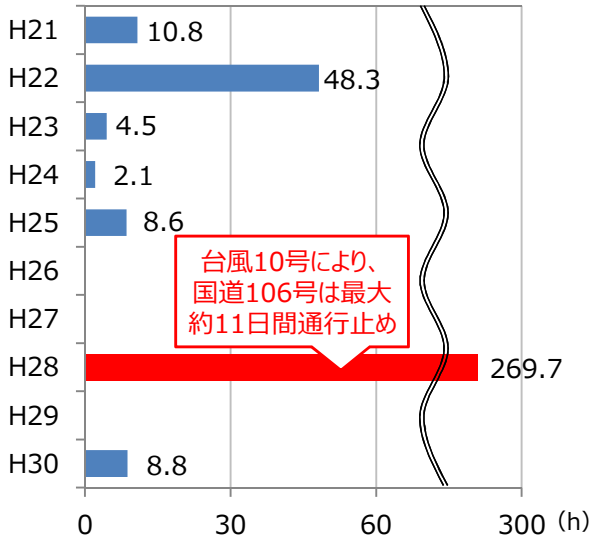
▼国道106号の被災状況




▼国道106号現況




▼国道106号の年別全面通行止め時間



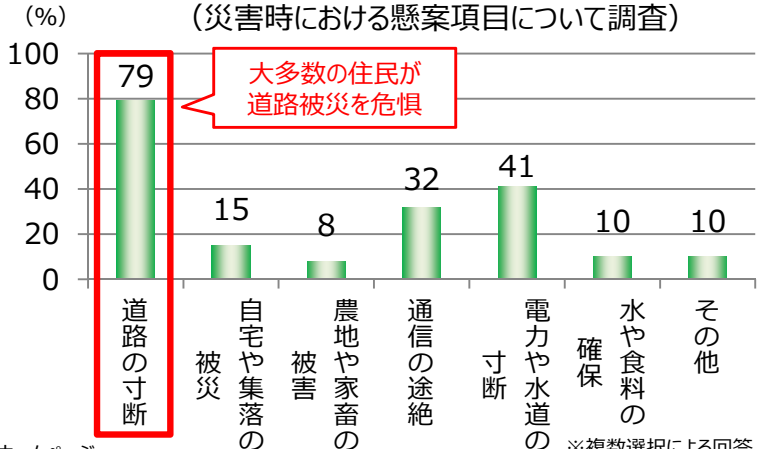

資料：岩手県提供 国道106号通行規制実績

▼平成28年台風10号による106急行バスの運行ルート




資料：※1 県北バスホームページ、
※2 ヒアリングによる実績値

▼台風10号豪雨2年アンケート
（災害時における懸案項目について調査）




※複数選択による回答
資料：岩手日報H30.8.31付

**《関係者の声》**

・孤立地区の解消に向けた道路啓開作業において、国道106号の寸断により、大型重機が確保できず、小型重機のみを使用した作業となりました。
・国道106号が通行できていれば、大型重機を現場に搬入することができ、少なくとも2日程度は早く復旧作業が完了し、地域生活への影響が軽減したと感じています。

（H30.10 復旧活動従事者 ヒアリング結果）